

一行數十  
米の單縱  
隊

那喇特河  
畔に避風  
幕營  
那喇特河  
畔

阿拉善と  
藥水

るをや。縦ひ隨處に之を得るとも、到底用に堪えざるに因り、汗王府は特に予一行の爲め、二張の氈幕、三頭の駱駝及十二頭の乘馬、五頭の馱馬を用意し、且つ蒙古大官二名(内一名通譯)蒙古人六名を派遣して、前途の便宜に供せらる。是に於て予が一行は人十五名、乘馱馬二十頭と爲り、數十米突の單縱隊を成し、汗王府諸官に見送られつ、徐々巴彥布拉克を出發す。『今夜不知何處宿、山川萬里絕人烟』の感あり。

小著勒都斯河谷を溯りて東行し、那喇特河畔に到る頃風甚しくして進むべからず。乃ち避難の地を相して那喇特河畔に幕營す。行程僅に五里半。此地は那喇特山道の分岐點に當り、那喇特山は、河の西北に聳え、殘雪斑々たり、其の山勢より見るも、達哈特達坂の如き急坂路ならざるを察するに足る。

十三日、汗比阿倫(ハビアリン)に着す。行程約十里。道路砂礫多きも、概ね平坦、騎行を妨げず。南側には濕地點在、往々湖沼を成し、水は鹹味を含む。該水源は北方山麓より出で、皆此に瀦溜するなり。蒙古人は其の湧出口を阿拉善(アラシヤン)と稱へ、藥水なりと信じ、病者に服用せしむ。途上屢々例の人畜一連の行列を以て、移轉する蒙古人に遭遇せり。